

福島第一原子力発電所現地確認報告書

1 確認日

平成30年12月20日（木）

2 確認箇所

- ・ Cエリア
- ・ セシウム吸着塔一時保管施設第一施設西側
- ・ 廃スラッジ一時保管施設南側
- ・ H4北タンクエリア付近
- ・ 増設多核種除去設備

3 確認項目

- (1) 蒸発濃縮装置付随タンクの撤去・仮置状況の確認
- (2) H4北エリア付近の観測井（E-10）付属設備の撤去状況
- (3) 増設多核種除去設備の多核種吸着塔（A）からの滴下事象の対応状況

4 確認結果の概要

(1) 蒸発濃縮装置付随タンクの撤去・仮置状況

蒸発濃縮装置^{※1}に付随するノッチタンク（蒸留水タンク、濃縮水受タンク・濃縮処理水タンク）の撤去作業等が行われていることからその作業の進捗状況についてCエリアを中心に確認した。

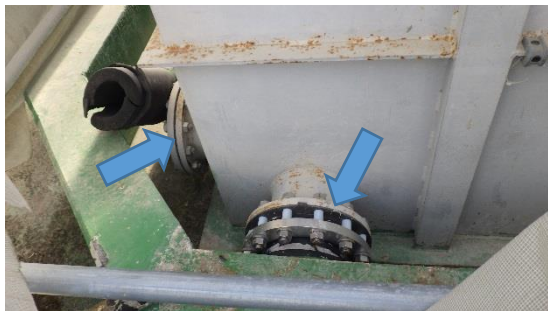
（前回確認；平成29年3月9日）

- ・ 蒸留水タンクについては東京電力の計画どおりCエリアで再利用予定の資機材として仮置きされていた（写真1）。当該タンクについては水抜きが完了しているが、汚染防止対策として、タンク開口部（写真2-1）及びタンクに接続している配管（写真2-2）は閉止されていた。
- ・ 濃縮水受タンク及び濃縮処理水タンクについては、全78基中72基がCエリアからセシウム吸着塔一時保管施設第一施設西側及び廃スラッジ一時保管施設南側に移設されており、再利用予定の資機材として仮置きされていた（写真3）。また、上記蒸留水タンクと同様、開口部は閉止されていた。（写真4）

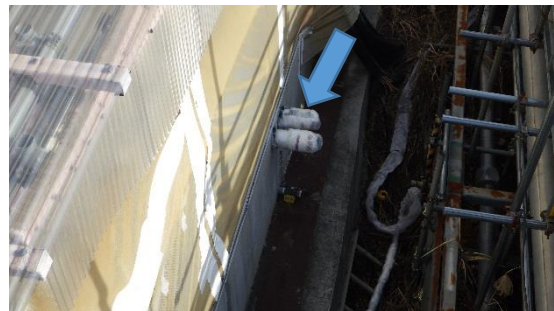
※1 蒸発濃縮装置とは、震災直後に使用されたSARRY、KURIONで浄化した建屋内滞留水を蒸留し、炉注水用の淡水を生成する装置。現在は撤去準備が進められている。



(写真 1)



(写真 2 - 1)



(写真 2 - 2)



(写真 3 - 1) Cエリア
(平成 29 年 3 月 9 日撮影)



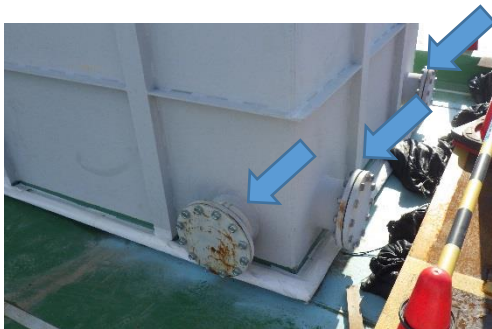
(写真 3 - 2) Cエリア
(平成 30 年 12 月 21 日撮影)



(写真 3 - 3)
セシウム吸着塔一時保管施設第一施設
西側



(写真3-4)
廃スラッジ一時保管施設南側



(写真4-1)
Cエリア

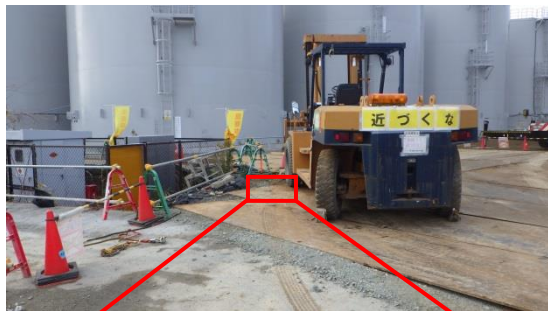


(写真4-2)
セシウム吸着塔一時保管施設第一施設西側

(2) H4北エリア付近の観測井(E-10)附属設備の撤去状況

H4北エリアでは、多軸自走車により搬入された溶接型タンクの建設工事が行われている。タンク搬入の際、多軸自走車の走行経路上に観測井(E-10)があり、支障とならないよう一時的に当該観測井附属設備が撤去されていたことから、今回、その状況を確認した。

- ・確認時、当該観測井附属設備は撤去されていた。(写真5-1)
- ・また、設備の撤去によって観測井周りに窪地ができたことから、タンク搬入時の荷重による影響を受けないよう埋め戻され、鉄板が敷かれていた。(写真5-1、5-2)
- ・東京電力によると、H4北エリアのタンクの建設工事が終了次第、鉄板を回収し、観測井を復旧させるとのことである。その間は、一時的に観測井での水位データが欠測となるが、全β及びH-3についてはサンプル採取可能であり継続監視可能とのことであった。(写真5-3)



(写真5-1)



(写真5-2)



(写真5-3)

(3) 増設多核種除去設備の多核種吸着塔（A）からの滴下事象の対応状況

本日午前11時44分頃、増設多核種除去設備において、漏えい検知器が動作したことを示す警報が発生したことから、東京電力から対策状況等を聞き取りするとともに現場確認を行った。

- ・東京電力によると、滴下発生箇所は、多核種吸着塔3Aの上部に設置されている点検口であり、当該点検口から水が滴下し、吸着塔を伝ってスキッド内に漏えいしたとのことであった。
- ・また、点検口のボルトを増し締めしたところ、午後0時23分に漏えいが停止したとのことであった。
- ・現場確認時、スキッド内に水溜りが確認されたが、堰内に留まっており、漏えいが拡大するおそれは認められなかった。（写真6）



(写真6-1)



(写真6-2)

吸着塔下部に設置されている堰

5 プラント関連パラメータ等の確認

各パラメータについて、異常な値は確認されなかった。